

2025 Bionic Jack Racing FIA-F4 選手権レースレポート



【FIA-F4 選手権シリーズ第6戦・第7戦】

鈴鹿サーキット（三重県：5.807 km）

8月23日（土）予選、決勝レース第6戦：曇りのち晴れ／ドライ 入場者数：19,000人

8月24日（日）決勝レース第7戦：晴れ／ドライ 入場者数：29,000人

#97 三浦 愛



#97 三浦 愛 Bionic Jack Racing

#98 IKARI



#98 IKARI Bionic Jack Racing

三浦愛は女性ドライバー最上位を維持も、自分が納得する成績は得られず

IKARI は練習走行でトップタイムを出す、予選のトラブルで流れが変わる

高木真一監督率いる Bionic Jack Racing は、今年も全 14 戦で競われる FIA-F4 選手権に、昨年に引き続き IKARI を、そして新加入の三浦愛を加え、2 台体制で挑んでいる。第 3 大会の舞台は、ドライバーズサーキットとして世界にも名だたる、鈴鹿サーキット。

開幕大会と第2大会は3か月ものインターバルがあったが、今大会は第2大会からわずか3週間後の開催となる。前大会の富士では、IKARI が練習走行における好調な流れを、予選でのミスから決勝まで逸した感があった。その一方で、三浦はフォーミュラのドライビング勘を取り戻しつつあり、理解度も向上している。その結果、女性ドライバーの最上位という第一目標は維持し続けている。三浦にとって鈴鹿はホームコースと言えるだけに、結果への期待が高まる。そしてIKARI にとって鈴鹿は、FIA-F4 だけでなく、PCCJ でも走り込んできたコースであり、事前テストもしっかりと行って手応えを得ている。まさに、上昇気流を得るには、絶好の機会と言えるだろう。



◆予選

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス第6戦 22 番手／第7戦 20 番手

#98 IKARI インディペンデントクラス第6戦 15 番手／第7戦 19 番手

8 月も終わりが近づいているのに、相変わらず厳しい暑さが続く中、専有走行が木曜日から開始された。強い日差しが刺す中、1、2 回目はクラスごと 30 分間の専有走行が行われ、1 回目のチャンピオンクラスでは三浦が 2 分 10 秒 126、2 回目のインディペンデントクラスでは IKARI が 2 分 12 秒 091 をマーク。そして両クラス混走となる 3 回目は、三浦のタイムが伸びなかったのに対し、IKARI は 2 分 11 秒 945 とタイムを縮めた。

金曜日にも専有走行が各クラス 1 回ずつ、混走 1 回の計 3 回行われた。まず、三浦が 2 分 09 秒 816 と前日よりタイムアップを図ると、IKARI も 2 分 11 秒 390 をマークしてインディペンデントクラスのトップに名前を刻む。この結果に IKARI は、「7 月、8 月と鈴鹿へ練習走行に来て、セットアップをいろいろと試してきた結果だと思っています。チームスタッフのおかげですね」と語る。しかし、混走となる 3 回目はチームの気温計が 41 度を指すくらいまでに上昇し、2 台ともタイムアップを図ることはできずに終わる。

土曜日、鈴鹿の上空は昨日までの青空から雲空となってしまったが、気温は 35 度近くまで上がっており、湿気も多い状況。FIA-F4 の予選は 8 時 55 分に、30 台がエントリーするチャンピオンクラスから開始となった。しかし、予選開始早々にスプーンカーブの立ち上がりで 1 台のマシンがストップしてしまい、セッションは赤旗中断に。三浦は、これからアタックという出鼻をくじかれた形となったが、一度ピットに戻り予選再開に備える。

9 時 05 分、残り 15 分で予選は再開される。三浦は気温とタイヤのことを考えて、最小限の周回数でタイムアタックに挑み、5 周アタックとなった最終ラップに 2 分 09 秒 336 を記録して第6戦のグリッドは 22 番手に。セカンドベストタイムで決まる第7戦のグリッドは 20 番手となった。

続いて9時30分から行われたインディペンデントクラスは、コースインしたIKARIが他車に追し出される形でスピン。なんとかピットへ戻ることはできたが、今度はエンジンが吹け上がらないトラブルに見舞われてしまう。トラブルは解消したものの、予選途中に赤旗中断があったためIKARIは、残り4分でタイムアタックするしかない状況に。

その状況下、なんとかワンアタックで2分12秒921を記録して第6戦は15番手に。しかし、セカンドベストタイムで決まる第7戦のタイムアタックはできなかったため、最後尾グリッドからのスタートとなる。

◇三浦愛

「予選はいきなり赤旗が出てびっくりしましたが、今回の予選は最小限の周回数で決めようと挑んでいたのが焦ることはなかったですね。順位的にはあまり良くなかったですが、昨日より自己ベストは上がっているし、トップとの差も詰まっているので、確実に自分自身はアップしてきていると思います。でも、テストの回数だったり、いろいろな準備が足りてないなということをすごく感じた予選でもありました。決勝はきっとSCが出ると思っているんで、スタートも昨日の練習でちょっとつかめたところがあるのでしっかりと決めて、順位を上げて帰ってきたいと思っています」



◇IKARI

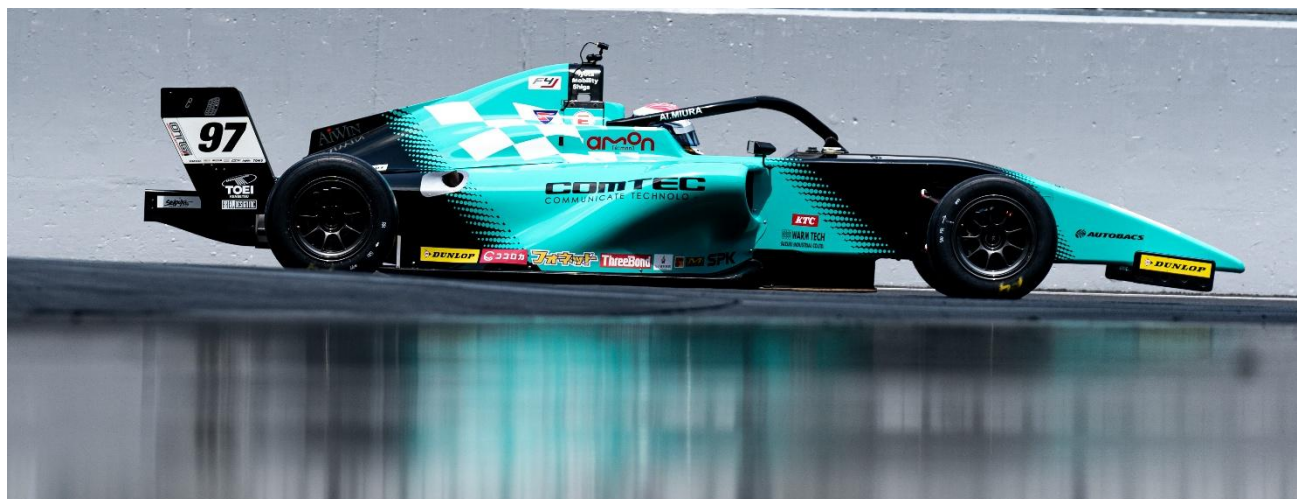
「わかんないんだけど、コースインして前を開けて走っていたら後ろから突っつかれてケツからスピンしちゃって……。で、エンジンかけて戻ってきたら今度はエンジンが吹けなくて。そしたら赤旗になってしまって、もう残り時間は4分。なんとか最後のアタックはできたけれど、参ったよね。もうほんと何があるかわかんない。せっかく昨日トップタイムを記録して、マシンも決まっていて、いい流れができていたのにもったいないよね」



◆決勝レース第6戦

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス 17 位

#98 IKARI インディペンデントクラス 12 位



レース1こと第6戦決勝は、11周もしくは30分間の争い。予選をすべて終えてから約4時間が経過した14時からスタートの第6戦決勝は、午前中の雲も姿を消して青空が広がる。気温も上昇して路面温度も高くなった鈴鹿で、グリッドはスタートラインから最終コーナー近くまで49台のマシンがズラリと並ぶ。

22番グリッドの三浦、クラス15番グリッドのIKARIともに、無難にスタートを決めて上位進出を狙っていたが、オープニングラップにアクシデントが発生してセーフティカー（SC）が導入される。これにより隊列を組んで周回を重ねることになるが、3周目の途中でSCカーのランプが消えて4周目からレース再開となる。三浦はリスタートを決め、その後20番手までポジションをアップする。

だが8周目に、今度は3台が接触するアクシデントが発生して、この日2回目のSC導入となる。10周目にSCのランプは消えるが、レースは11周のため残り1周での勝負となった。ここで三浦は、後方から追い上げてきたライバルに抜かれてしまい19位でゴールするが、レース後2台にタイムペナルティが加算されたため17位となった。一方のIKARIは12位でゴールした。

◇三浦愛

「自分としては、今年のここまでのレースで一番きちんと戦いができたかなと思っています。レースで試してみたいことがあり、それなりに通用するというか、問題ないということが確認できたので、自分の中に今までひとつしかなかったアイテムの引き出しが増えました。でも、最後の最後に森山選手に勢いよく追いつかれて抜かれちゃったのが悔しいです。あれが守り切れたら、気持ちよくレースを終えられたんですけどね。マシンのペースそんなに悪くなかったので、明日もチャンスがあると思うので頑張ります」



◇IKARI

「ダメでしたね。やはり予選がすべてだと思うんですよ。レースで抜くのは難しくて、今日も何らかのチャンスはあったんですけどダメでした。今回は予選でつまずいちゃったのがほんとに痛い。明日は最後尾グリッドからなので、どこまで順位をアップできるか……」



◆決勝レース第7戦

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス 20 位

#98 IKARI インディペンデントクラス 16 位



前大会はメインレースの SUPER GT がスプリントレースを実施したため、スケジュールも普段と異なっていたが、今大会は元に戻されてレース 2 こと第 7 戦決勝は、いつもどおり日曜日の朝一番となる 10 時 40 分スタートで開催された。朝から青空が広がり、8 月下旬とは思えない酷暑が続き、今日のレースもライバルとの戦いだけでなく暑さとの戦いにもなりそう。

三浦は前日の予選セカンドベストタイムでグリッド 19 番手。一方、IKARI は予選中のマシントラブルだけでなく赤旗中断の影響もあり、タイムアタックを 1 回しかできなかったため、グリッド最後尾のクラス 19 番手スタートとなってしまう。

しかし IKARI は、ロケットスタートで 1 周目になんと 13 番手まで一挙にポジションをアップする。三浦はまずまずのスタートを切るも、その後のミスで 21 番手に後退。そのレース 1 周目、S 字コーナーで 1 台がコースアウトを喫して、マシンを回収するため第 6 戦に引き続きオープニングラップから SC が登場する。2 周目に SC のランプが消えて、3 周目にレースはリスタート。

三浦はポジションをひとつ落としてしまうが、IKARI は逆にポジションをさらにひとつアップ。今日の IKARI はいつも以上の怒濤の走りを見せ、4 周目には 11 番手とポイント獲得まであと一步というところ

に。周囲の期待も高まるが、6 周目にアクシデントが再び発生してしまい、SC が導入される。そして 9 周目にレースは二度目のリスタートとなるが、ここで IKARI がコースアウト。なんとかレースに復帰するが、ポジションは 16 番手まで落としてしまう。

さらにこの周、またまたアクシデントが発生。レース 3 回目の SC が登場し、SC 先導のままゴールを迎えることとなり、三浦は 20 位、IKARI は 16 位に。鈴鹿入りの時点では上昇機運にあっただけに、チームとしては残念な結果に終わってしまったため、次戦でのリベンジに期待したい。

次回第 4 大会は、9 月 20～21 日にスポーツランド SUGO で、3 レース開催される。IKARI、三浦ともに鈴鹿では納得のいく結果は残せなかったものの、その過程の中で収穫は多くあったはずだ。その中の良い部分を増幅させ、SUGO では好結果を残すことが望まれる。

◇三浦愛

「今日は良くなかったですね。スタート自体は良かったんですけど、S 字で失敗しちゃって、もうどんどん後ろから来られて順位落としたのがもうすべてでした。その後は SC ばかりで、正直レースにならなかったもので、自分としては昨日よりちょっとネガティブな方向に行っちゃいました。攻めようとしたけど、S 字での失敗があって精神も含めて消極的になっちゃったところもあったと思います。少し不完全燃焼なレースになっちゃいましたね。オーナーさんからクルマを壊しても行けと言ってもらっていたのに、そこができなくて……。次回の SUGO はレースで抜くのは難しいので、予選で絶対的なスピードが必要だと思っています」



◇IKARI

「ロケットスタートがうまく決まりましたね。ストレスとかプレッシャーがないと、人間ってこんなもんなんですね、諦めの境地になると。その後、11 番手までポジション上げて、SC 明けのリスタートで前のクルマの横に並びかけたら、1 コーナーでアンダーが出てしまって、S 字でなんとなく良くなってきたんで、『よし、もう行けんだろう！』と思って NIPPO コーナーで踏んだら、またダーって飛び出しちゃいました。もう今回は、ダメダメでしたね」



